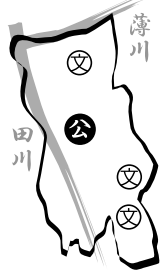


館報

庄内



庄内地区	
平成31年1月1日現在人口	
世帯数	6,884戸
男	7,367人
女	7,357人
合計	14,724人
庄内地区公民館 発行 (ゆめひろば庄内)	
電話	24-1811
FAX	24-1812

地域に残る「三九郎」  
伝統の継承者は地域の小学生だった

新春を迎え、いよいよ平成から新しい元号を迎える年になりました。時代が移り変わる中、今年も各町会で三九郎が行われました。古くから引き継がれている伝統行事。毎年行われていますが、少しずつ昔のやり方と変わっていることにお気づきですか？今回、編集委員が庄内地区在住の方(70)に当時のことについてインタビューしました。

委昔の三九郎はどのような雰囲気だったのでしょうか？

住私は昭和20年代中盤の生まれです。従って、私の経験談は昭和30年代中盤頃までの思い出です。当時は小学校高学年がほぼ全員参加して、1月7日に正月の松飾りを集めて三九郎を立てました。私の町会では15名程でした。立てるのは6年生が中心でした。そして、以前は15日に固定されていた成人の日の前日の14

日に燃やしました。立ててから1週間程ありますので、3〜4人程度で交代して寝ずの番をします。

委寝ずの番とは？

住せつかく組み立てた三九郎から松飾りを盗まれたり、ひどい場合は燃やされたりしました。そういうことをするイタズラ小僧がどこにでもいたのです。町会ごとの対抗心もあつたかもしれません。けど、自分たちの力で作り上げた三九郎を、友人たちと協力して守るのは興奮しましたね。

委真冬で大変だったのでは？

住お腹は空きましたので七輪を用意して餅を焼いて食べました。寝るときは三九郎の中へ入って風を防げましたよ。

委何だか楽しそうですね。

住寝ずの番だけでなく、三九郎を小学生主体で行っていたのは、昭和20年代中盤生まれの我々の世代くらいまでで

しょうか。戦後の混乱から復興していくにつれ、三九郎の様子も変わっていったのです。

委三九郎の立て方や材料に変化はありましたか？

住三九郎の骨組みに使う御神木についてはお話ししましょう。現在は以前から使っている御神木を、三九郎が焼けている途中で抜き、来年に使うため残す町会が多いはず。昔は、小学校高学年が山へ行って、御神木を切ってきた町会があると言いました。地域によっては御神木を薪にして地区内へ売り、利益を小学生らで分配したこともあるとか。

委山からの切り出しも小学生だけで行ったと？

住はい。三九郎に使うということであれば、木を切り出す必要はなかったようです。しかし、時代が下ると菓子折りを持って挨拶をするようになったと聞いています。私の町会は市街地だったので大人が手配してくれました。地域の林業業者さんに依頼する町

会もあつたそうです。入手方法は地域差があるので、詳細はそれぞれの地域の方に聞いた方がよいかと。

委骨組みの柱はずっと使い回すものだと思っておりました。

住今、三九郎という伝統行事が、果たして小学生が主体的に行えるでしょうか。時代背景や生活環境が変化し、伝統行事の運営も変わりました。

委今と昔で具体的にどう違うのですか？

住昔は生きるため、食べるために大人は必死に働いていました。子どもはいわゆる「ぼったらかし」でした。大人が三九郎に関わることがないので、子どもたちは自分たちの力で松飾りを集め三九郎を立てました。とても自主性が強かったと今は思います。段々生活が豊かになっていくと、次第に大人が関わるようになっていきました。今の時代、子どもたちだけで全て何かをやらせるなんてことは少ないのではないのでしょうか。危ないとか、大人が関わらないとダメだとか。親は子どもだけでは任せられないと思っただけではないのでしょうか？昔はそれが普通だった。これも時代と共に変化したこと

でしょう。



新しい年が明けました。今年も三九郎を積み上げた姿をみると思い出す風景があります。

私の故郷ではこの行事をどんど焼きと呼んでいて、よく晴れた日、まぶしく明るい青い空の下、大きな炎で正月飾りが勢いよく焼かれる音、子ども達の歓声、焼きみかんの不思議な味……。それらが一気に思い出されます。ふと気づいたのはそういう記憶を持つ自分がとても幸せに育つたのだということ。家庭や近所の方々、地域の皆さんに見守られ、健やかに育つたのだと今、改めて思います。地域の人の温かさ、つながりは子どもを、そして人を幸せにする大切な要素だということ。後来るであろう未知の未来にも必ず人の幸せに不可欠なものではないのでしょうか。

今年度公民館活動に携わり、地域の絆や眼にはみえないけれど大切な力を育てる、はぐくむ、支えていく大きな力の一片に自分自身もなっているのあれば嬉しいなと思います。

(並柳 S)

### きらのわが街 南新町1丁目町会

#### ◆町会

江戸時代より松本と塩尻間の街道で人々の往来も活発。大正3年4月区長制がしかれ、南新町1丁目になり町が発展します。戦後、本通りは国道19号線になり商店も数多く町会が発展しますが、平田新橋間のバイパスが開通して国道が県道になりました。その後一方通行になり、車の流れが変わり人々の往来も商店数も減少、現在では58世帯の小規模な町会です。

#### ◆町会の現状

戦後は約100世帯ほどあり、公民館は昭和29年より開館し昭和30年から敬老会、盆踊り、旅行会、婦人会、青年会、商業会等の活動実績があります。昭和56年12月11日に大火災があり14世帯が焼失した際、町会と町民が一体となって避難場所を公民館にし、食事、着物、ふとん等を持ち寄り、被災者の支援を行いました。大火災を教訓と活かし、現在の新公民館を平成7年に新築し活動しています。近年は少子高齢化が進み、春秋の防災訓練、敬老会、みつば会等、減少傾向ですが、工夫をこらし末永く活動して継続したいと思っています。

### きらのわが街 神田町町会

#### ◆真夏の宴

なんだかんだ納涼祭が、今年も8月14日、お盆に開催されました。「深めよう神田の〇(わ)ー!」をキャッチフレーズに町会の皆様から子どもから大人まで集いました。午後4時よりちびっこタイムが始まり、大勢の子どもたちがスーパードールすくい、ぼんぼん釣り、ダーツ等のゲーム遊びを楽しみました。隣のテントでは実行委員の方達が出店(屋台)を、焼きそば、イカ焼き、フランクフルト等が

り、公民館は昭和29年より開館し昭和30年から敬老会、盆踊り、旅行会、婦人会、青年会、商業会等の活動実績があります。昭和56年12月11日に大火災があり14世帯が焼失した際、町会と町民が一体となって避難場所を公民館にし、食事、着物、ふとん等を持ち寄り、被災者の支援を行いました。大火災を教訓と活かし、現在の新公民館を平成7年に新築し活動しています。近年は少子高齢化が進み、春秋の防災訓練、敬老会、みつば会等、減少傾向ですが、工夫をこらし末永く活動して継続したいと思っています。

沢山。公民館駐車場を利用しブルーシートを敷き、長テールが設置され、家族連れの方が大勢集まりにぎやかに隣近所の方と話を花を咲かせています。夕方6時より神田ショーが始まりました。筑摩小学校に通う子ども達の合唱を皮切りに、歌あり踊りあり、神田町会に昔から受け継がれてきた木遣りを、長持保存会の皆さんが披露しました。周りも暗くなり納涼祭もフィナーレをむかえる時間となり、打上げ花火(スターマイン)が盛大に打上げられました。次の夏を楽しみに一年を元気に過ごしましょう!!

## 筑摩小学校避難所運営訓練 アンケート結果

災害発生時を想定した防災訓練の一環として、昨年11月11日に筑摩小にて避難所運営訓練が行われました。参加者182名にアンケートを行い、90名の方からご回答をいただきました。この結果を踏まえ、今後に生かせればと思います。

問1 避難所運営訓練に参加して(役に立った88名)

問2 このような訓練は必要だと思いますか(必要85名)

問3 訓練内容について(ちょうど良い52名、もう少し時間を短くしてほしい33名)

問4 訓練に取り入れてほしい内容があればご記入願います

・非常用持出袋の中身の見本

・ケガ人対応のためのVTR

・ペットの避難訓練

・車での避難訓練等

問5 訓練の実施方法、時期等についてお聞かせください

【1】内容について

・実際にダンボールベッドを作成できた。話だけでなく実践できたことが良かった

・非常食体験ができた良かった

【2】時期について

概ね11月で良いという意見、夏から秋頃との回答が多数。中には夜間訓練の意見も

問6 訓練全般についてご意見をお願いします

見をお願いします

【1】次回へ向けた要望

・幼児のための遊び場、授乳ルームや談話スペースの確保を訓練の中に設けるべき

・仮設トイレの仕様や設置場所に疑問を思った

・トイレ設置は、元気な人用と(社会的)弱者用に分けた方がよい

・集合から活動開始までの時間を短縮してほしい(遠くから来る町会に早めに移動していただく等)

・訓練時間が余ったので、複数の訓練ができればよい

【2】良かった点

・非常時の参考になった、貴重な体験だった、必要なことなので1回でも体験したほうが良いと思う等

・体育館の床の冷たさを感じ、自分の体を守るには自分自身なのだ実感した。避難する時の服装等の啓発活動も必要だと思つた

【3】ご意見

・もっと大勢参加するべき

・朝の放送が聞き取れない

・トイレ等各町会で準備と

なっているが、メーカーを統一した方が組立てや設置に融通がきくのではないかと

皆さま、ご協力ありがとうございました。

## 防災ワンポイント情報

季節は春に向かっていますが、まだまだ寒い日が続きます。大雪も心配です。

さて、皆さまのご自宅付近に消防水利、すなわち消火栓はございますか？

これらは大雪が降れば埋まってしまう。特に埋設型の消火栓等の場合、多少の雪でも踏み固められて凍結すると、探し出すにもかなりの手間が。これらを定期的に点検し、降雪時でもすぐ使用できる状態を維持しているのは、皆さまのご近所に住む消防団員の方々です。

雪かきをする際、これらの消防水利の管理に皆さまのご協力をお願いします。

火事が起きてもすぐに消火できるようにするために。



道路や歩道の下に埋設されているタイプ

地面に立っているタイプ